



骨髄採取後に尿道損傷を認め、退院後再出血した事例について

公益財団法人日本骨髄バンク
理事長 齋藤 英彦

本年6月下旬に骨髄バンクを介して骨髄提供した40歳代の男性の方が、骨髄採取後に尿道損傷を認め、退院後再出血した事例が報告されました。

骨髄採取終了後に、膀胱留置カテーテルのバッグ内に尿が出ていないため確認したところ尿道損傷が判明しました。翌々日、尿道からの出血がないこと、排尿に問題ないことから退院されましたが、退院後(採取後12日経過)勤務中に出血があり、近隣の病院へ救急搬送、泌尿器科にて処置した後、帰宅となりました。

翌日、採取施設を受診し帰宅後、尿道カテーテル内より凝血塊と血液の流出を認めたため、採取施設を再受診、幸い尿道からの出血は止まっていたのですが、経過観察目的と膀胱鏡での出血点の観察が望ましいことから入院となりました。

その後、貧血症状が認められ鉄剤の投与が開始され、貧血症状は改善、尿道からの出血はなく経過したことから、6日後に退院となりました。

現在も、経過観察を継続中です。

<原因等>

手術室で挿入した膀胱留置カテーテルによる尿道損傷

日本骨髄バンクでは非血縁者間骨髄採取認定施設に対し、再発防止・注意喚起の観点から緊急安全情報を発出しましたのでご報告いたします。

<参考>

- ◆凝血塊 : 血液が凝固してできた塊
- ◆膀胱留置カテーテル : 手術中の全身状態を管理する目的のため、カテーテルを尿道から膀胱内へ挿入し、持続的に尿を排出させるものです。

<報道に際してのお願い>

- ・プライバシー保護のため、ドナーや施設についてこれ以上の情報はお伝えできませんのでご了承ください。
- ・骨髄バンクでは本件も含め、ドナーのリスク情報について情報開示に努めています。ただし、重大な事態が起こる危険性が必要以上に強調されますと、現在進行中のコーディネートがキャンセルされるなど、患者さんの生命に関わる可能性もあります。慎重な報道をお願いします。

■本件に関するお問い合わせ:

公益財団法人 日本骨髄バンク ドナーコーディネート部:

折原、杉村、橋下

電話:03-5280-2200(直通)